

南アフリカ為替週報

2022年3月3日 | みずほ銀行欧州資金部

<過去1週間の動き>

(2月24日～3月2日)

USD/ZAR: 15.1100～15.5600

ZAR/JPY: 7.40～7.64 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、急落、反発の先行を経て、再び急落後、安値圏での上下動に終始。24/25日の乱高下は、並行したロシア・ルーブルの乱高下に巻き込まれた値動きと考えられた。24日の現地時間早暁、ロシア軍は各方面からウクライナに侵攻、初手から想定外(英米諜報部は想定していた模様だったが)の全面戦争へと突入した。同開戦を受けルーブルは前日の欧州終値比-11%を超える急落、前後してランドも対ドルで15.3700(同-1.74%)まで下落。ロシア中銀によるルーブル買い為替介入を受けてルーブルは程なく急反発に転じたものの、ランドはその後15.5300(同-2.75%)まで続落、同日の北米時間夕方になって漸く反発に転じた。翌25日までに、ランドは15.1100までほぼ全戻したものの、週明け28日には再び急落。この急落以降の上下動も、欧米の極めて厳しい対ロ制裁導入(一部ロシア銀のSWIFTからの除外、ロシア中銀資産凍結など)を受けたルーブル暴落、乱高下(後述)に連れた値動きには違いなかったが、前週の値動きと比較すると、ランドへの影響はほんの僅かにとどまった。その後のランドの安値膠着に、28日発表された南ア1月貿易収支の大幅下振れがどれだけ影響したかは定かではなかったものの、相応に重石になっていた可能性は考えられなくもなかっただろう(後述)。

<過去1週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
2/28	6:00	民間部門信用(前年比)	1月	+3.12%	+2.90%	+2.58%
	12:00	貿易収支(ZAR)	1月	+3.6bn	+17.3bn	+29.0bn
	12:00	財政収支(ZAR)	1月	-65.9bn	-62.0bn	+41.9bn
3/1	12:10	自動車販売統計(前年比)	2月	+18.4%	+12.5%	+19.5%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

<向こう1週間の見通し>

(3月3日～3月9日)

USD/ZAR: 15.100～15.500

ZAR/JPY: 7.45～7.65

向こう1週間の南ア・ランド相場は、方向感の交錯した横ばいを予想。この間、ロシア/ウクライナの武力衝突とルーブルの暴落が、ランドを含む新興市場通貨全般の取引水準を押し下げたのは疑いようもない。それは先行き不透明感の高まりに伴うリスク回避のような心理的要因だけでなく、投資資金の流動性低下(注1)という意味でも、燃料/穀物価格上昇による購買力低下/経済成長鈍化という経路を通して、世界経済にとって逃れようのない重石のように思われる。6,000億ドルを超える金・外貨準備を擁しながら、その資産を凍結されたロシア中銀の、ルーブルを買い支える(外貨を売る)能力は大幅に制限され、ルーブル防衛のために実施した大幅利上げ(9.50→20.00%)も限定的な効果しか挙げられなかった(28日)。ルーブルの安値定着、続落圧力が続くのであれば、ランドを含む新興市場通貨全般に強気になるのも、当面難しいのではないかと。一方で、原油価格急騰と並行して、金、プラチナなど貴金属、石炭などの南ア主要輸出産品の価格が高騰・高止まりしているのは、ランド下押しと併せ、南ア交易条件の改善という目線でランドには好材料でもある(注2)。南ア1月貿易収支の下振れも、市場予想を大幅に下回ったのは事実だが、1月の貿易収支は例年大幅に悪化する季節性があることや、足元交易条件改善などに鑑みれば、単月の数字で過度の悲観に陥るのは明らかに早計。南ア資産市場も、この間、国債利回りは続騰したものの(価格は低下)、南ア株価指数は明確に底打ち反転と、その反応は交錯している。足元燃料・穀物価格の高騰を受け、米連銀による3月利上げはほぼ確実視されているようだが、先行き景気不透明感から、一時大幅に織り込みが進んだ+50bp利上げの目がすっかり消えてしまったことも、ランドには交錯した影響を及ぼすのではなかろうか。

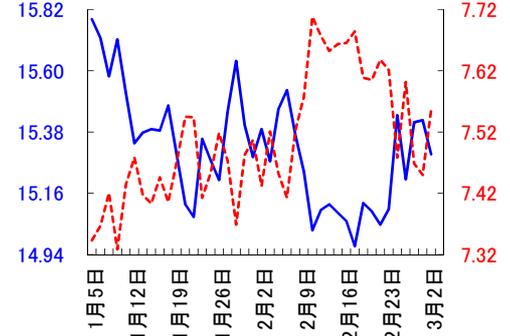
<向こう1週間に発表予定の主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
3/3-3/15		失業率	Q4		35.0%	34.9%
3/7	6:00	総外貨準備高(USD)	2月			57.20bn
3/8	9:30	GDP(前年比)	Q4			+2.9%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

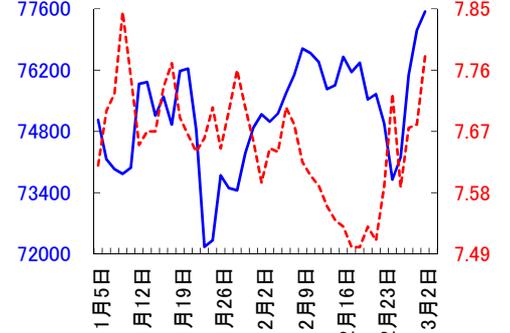
為替相場の推移(資料:ロイター)

実線/左軸:対米ドル、点線/右軸:対円



株式/長期金利の推移(資料:ブルームバーグ)

実線/左軸:JSE全株、点線/右軸:10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		4.00%
長期金利(10年スワップ)	3月2日	7.780%
株価指数(JSE全株)	3月2日	77536.12
成長率(GDP/前年比)	Q3	+2.9%
経常収支(ZAR)	Q3	+226bn
失業率	Q3	34.9%
消費者物価(前年比)	1月	+5.7%
小売売上高(前年比)	12月	+3.1%
製造業生産(前年比)	12月	-0.1%
鉱業生産(前年比)	12月	-1.1%
貿易収支(ZAR)	1月	+3.6bn
金価格(ロンドン 17:00)	3月2日	1918.95

(注1) 投資家、事業会社から家計まで、様々な経済主体が、手元流動性を手厚くするために現金確保に動いた結果

(注2) 燃料価格高騰自体は、燃料純輸入国である南アには交易条件悪化要因ではあるものの

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。